



# Thanks Day “いま、「ありがとう」 をつたえよう。”

東京エレクトロン九州で毎年おこなっているイベント「Thanks Day」。今回は、皆さんに Thanks Day について知っていただきたく、活動報告も交えてイベントについてご紹介させていただきます！

東京エレクトロン九州では、10年以上にわたり毎年秋に「Thanks Day」という企業イベントを開催しています。“いま、「ありがとう」をつたえよう。”をコンセプトに、従業員やその家族、協力企業、地域住民の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを伝え、おもてなしすることを目的としています。

自社の近隣にある公園を会場としてリアルな交流の場を設け、経営陣も早期の企画段階から関わって熱意を共有し

ています。社内では感謝とつながりを深める重要な位置づけとして、運営チームが毎年気持ちを込めて企画を練り上げており、多くの笑顔が集う地域のイベントとして定着しています。

## ● Thanks Day 開催のきっかけと成り立ち

Thanks Day はもともと従業員同士の交流促進を目的に立ち上げられました。現在では従業員だけでなくその家族のほか、お客さまやお取引先、行政機関や大学関係者、地域住民にまで対象を幅広く広げています。

初回開催は10年以上前、一人の従業員が「従業員同士でもっと気軽にコミュニケーションを深められる場をつくることはできないか」と声をあげたことがきっかけでした。この想いを受けて社内限定イベントとして第1回 Thanks Day が開催され、従業員同士が感謝の気持ちを伝え合い親睦を深める場となりました。



イベント会場の様子



大型ビジョンで迫力の映像



くまモン登場 ©2010 kumamoto pref.kumamon

その後、イベントの趣旨と活動が社内でさらなる共感を呼び、感謝の輪を広げたいという声が高まりました。こうして対象が拡大され、社外の皆さまもお招きする形へと成長。地域社会とのつながりを深め、企業と地域が共に感謝し合う重要な時間として根付きました。

現在では秋に地域の公園を貸し切り、多彩なプログラム

を揃えた恒例イベントとして、家族連れや知人同士で賑わう交流の輪が広がっています。従業員の提案から始まった社内イベントが、現在では企業と地域を結ぶ重要な架け橋へと成長。今後も Thanks Day を通じて、社内外の関係者との絆を深め、感謝の文化を育み続けていきたいと考えています。

### ●イベントのプログラムと2025年実施回の見どころ

今回は、2025年10月25日(土)に実施しました。Thanks Day の準備は例年4月頃から本格的に始まり、参加者が充実した時間を過ごせるよう綿密にプランを練っていきます。魅力の一つは多彩な催しにあり、まず「ふるまい企画」では地域の特産品や名物を来場者へ無料で振る舞い、地元の文化や味覚を楽しんでいただける場を設けています。

ステージ企画も見どころの一つで、歌手やお笑い芸人などプロのパフォーマーによるライブで会場を盛り上げます。昨年度は、なかやまきんに君、テツ and トモをお呼びしました。さらにバンド演奏や「成年の主張！大声コンテスト」といった従業員参加型の企画も行い、毎年飽きさせない工



ゲスト なかやまきんに君



大声コンテスト

夫をしています。

また遊具・体験コーナーでは子どもに大人気のふわふわ遊具やボルダリング体験コーナーのほか、地域のプロスポーツチームとの体験交流も実施しています。食の楽しみも充実しており、「キッチンカー」には地域の飲食店が多数集まり、多彩なメニューを提供。加えて「従業員出店」では、従業員がオリジナル商品やサービスを披露し、イベントの一体感を高めます。そして Thanks Day を締めくくるのが「大抽選会」。豪華賞品が用意され、多くの来場者がこの瞬間を待ち望んでいます。抽選会はイベントのフィナーレを華やかに飾り、参加者全員へ感謝を伝える大切な時間でもあります。



参加者に景品を渡す 東京エレクトロン九州 林社長

このように Thanks Day は地域の魅力を享受しつつ、従業員と地域の皆さまが交流し楽しめるイベントです。毎年工夫と地域連携を重ね、参加者の期待に応え続けています。

ちなみに、昨年度は、過去最高の約5,300名の方がご来場されました！

### ●準備から開催までの舞台裏エピソード

Thanks Day の運営にはさまざまな工夫と多くの調整が求められます。日常業務をこなしながらイベントの細やかな準備をすることに決して負担がないわけではありませんが、運営メンバーは業務の合間に企画検討や調整、当日の運営サポートを担い、時間管理と負荷配分に細心の注意を払っています。

また、一過性のイベントではなく企業文化として根付かせるため、毎年プログラムの継続と刷新のバランスをとることも重要と考えています。定番企画で参加者に安心感と一体感を示しつつ、マンネリ化防止のために新企画を導入。参加者の意見を反映したワークショップや新交流アクティビティを取り入れ、イベントの新鮮さを維持しています。準備段階ではメンバー間の綿密なコミュニケーションや協

力も欠かせません。困難にぶつかりながらも協力し合う体験は運営チームの結束を深め、より良いイベントへとつながっていきます。今後もメンバーで支え合いながら改善を積み重ね、参加者に満足いただける場づくりを続けていきます。



スタッフ決起集会

●参加者の声と主催者としてのやりがい

長年にわたる Thanks Day は、従業員とその家族、地域住民の皆さまなど多くの方々が一堂に会し、多くの笑顔を生み出す場となっています。来場者からは「家族で楽しく過ごせた」「地域の方々との交流が深まった」「毎年楽しみにしている」といったあたたかい声をいただいております、地

域との絆を深める大切な場であることを実感できます。

主催側としては、企画から運営まで試行錯誤の連続ですが、全員が力を合わせて成功に導くことに大きなやりがいと達成感を感じています。そして地域の皆さまと直接交流できるこのイベントは社会貢献にもつながっており、その価値をあらためて認識しています。

今後も地域の皆さまに喜ばれるだけでなく、Thanks Day が従業員の誇りとなり、地域と共に歩む企業としてさらなる信頼と絆を深めていくことを目指します。



従業員によるバンド演奏

(東京エレクトロン九州株式会社  
総務部 総務グループ 米田 大)